

第4回 品川区スポーツ推進計画策定委員会 報告書

- 日 時 令和2年5月22日（金）～6月4日（木）
- 場 所 ※コロナウイルスの影響による緊急事態宣言期間中のため書面にて開催
- 議題
1. ヒアリング調査概要と結果からの課題について（追加報告）
 2. 施策の柱について
 3. 基本理念について
 4. その他について
- 配付資料
- | | |
|-----|---------------------------|
| 資料1 | 第3回品川区スポーツ推進計画策定委員会 議事要旨 |
| 資料2 | 品川区スポーツ推進計画策定委員会委員名簿 |
| 資料3 | 追加ヒアリング調査概要と結果からの課題について |
| 資料4 | 品川区のスポーツを取り巻く現状と課題及び施策の柱 |
| 資料5 | 品川区スポーツ推進計画の施策の柱と取り組みの方向性 |
| 資料6 | 品川区スポーツ推進計画の基本理念の検討 |

■議題（詳細）

1. ヒアリング調査概要と結果からの課題について（追加報告）

委員の意見	委員長の意見
<p>○障害者スポーツと言っても知的障害者の方や身体障害者の方など、取り組む競技種目が違うことや障害の程度によってルールや競技内容が柔軟でなければならず、スポーツ施設職員の研修は必要条件となると思いました。</p> <p>○また、パラスポーツを広め、障害者理解や共生社会の実現に向けて、障害者と障害のない方がスポーツを一緒に楽しめる仕組み（例えば、ボランティア体験がきっかけで一緒にスポーツを楽しむ）ができるとういと思いました。</p>	<p>○スポーツ施設の職員を養成する取り組みとして反映できるよう検討します。</p> <p>○障害者スポーツを推進する取り組みとして反映できるよう検討します。</p> <p>○以上、「区民の活動を広げる担い手づくり」（資料4・5）の中で検討します。</p>
<p>○資料4の施策の柱1の中段ころに、「実施率の向上を目指したスポーツ教室」とあり、これは良いとは思いますが、私は教室をきっかけとしてその後の継続的な活動に繋がることはそれほど多くはないと感じております。種目と内容にもよりますが、教室終了後、仲間とか受け入れてくれる場があり、そこでは初心者にもしっかりと付き合ってくれることが継続に繋がるためには必要と感じます。特に初心者を対象とするきっかけづくりの教室は指導内容や指導者の質も大切ですが、教室終了後の継続を考慮し、指導スタッフや協力団体などを考えることが大切かと思えます。教室終了後の継続的な活動に繋げることを意識した施策体系が大切と感じます。</p>	<p>○スポーツを単発的に促す施策だけではなく、継続につながる施策の重要性をご指摘いただいたと認識しています。国や東京都においても、スポーツに対する関心・行動の段階別に施策を整理している傾向がみられますので、区としてもその視点を加味して施策体系を検討していきたいと考えています。</p>
<p>○特に大きな課題はないが、区と国を比較するよりも区と東京都（または23区）との比較の方が対象としてふさわしい。小中学校は体力テスト（都の体育連盟調</p>	<p>○人口の少ない町村などが含まれている全国の傾向よりも、東京都の傾向の方がより現状と課題を的確に捉えやすいと考えられるため留意するようにいたします。</p>

委員の意見	委員長の意見
<p>査) で区市別のデータを出されている。そのような方法も参考になるのではないかな。</p>	<p>また、今後、計画書の素案を作成する上で、小中学生の東京都統一体力テストの結果を掲載する予定でしたので、次回の会議でご確認いただければと思います。</p>
<p>○現在のスポーツを推進すると、行政を補完する「スポーツ協会」の意見・考え方を聴取できたらと思いました。</p>	<p>○品川区スポーツ協会へのヒアリングは昨年度に実施しましたので、課題に反映しています。</p>
<p>○オリンピック・パラリンピック 2020 一年延長されたところですが、大井ホッケー場の現時点でフットサルなどで区民利用は可能か活用の可能性。</p> <p>○校舎改築が続く中で、代替施設（地域開放）の確保と既存利用団体との調整について。</p>	<p>○オリパラのレガシーとして、競技会場の有効活用は前向きに検討したいと考えています。</p> <p>○学校施設が使えないとスポーツのできる環境が制限されてしまう点は承知しています。この点を加味して、「学校施設開放の活性化について（資料5）」を具体化する施策体系の中を検討していきたいと考えています。</p>
<p>○P2④組織・団体の運営について 保護者の中には厳しい意見や要望を訴えてくる人もおり、その対応に苦慮している。という意見があるが、その他にもけがや活動中の事故といったリスクにおびえる運営側・指導者の様子うかがえる。こういったリスクに備えた支援・対策も行政は検討すべきであると思う。</p> <p>○スポーツ実施の二極化の話題が出る時、実施しない子どもの問題がクローズアップされがちであるが、実際には部活動の日数制限や子どもスポーツ団体の負担などが注目されるように、「やりすぎの子どもたち、やらせすぎの指導者、やらせすぎを助長する環境・制度」の問題もあるはずである。そういった視点はスポーツ関係者からのヒアリングでは出てこない。そういった視点も加えた分析が必</p>	<p>○スポーツを実施している時のケガや事故の安全対策は重要と考えます。取り組みを検討する際に留意します。</p> <p>○なかなか当人から意見をもらうことが難しい内容と考えます。学校関係者や少年・少女スポーツ団体関係者の委員の皆さまから実態を聞きつつ、取り組みを検討するよう留意します。</p> <p>○これらの点については「学校運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（H30：スポーツ庁）に準じた考え方で施策を検討したいと考えています。</p>

委員の意見	委員長の意見
要である。	
<p>○高齢世代と子供の非実施者の取り組みについては、一案としてお祭り式があります。まずはからだを動かすこと、ルールやゲーム性のなかでの楽しさや遊びを知り次のステップのスポーツに移行する方法です。スタンプラリー形式で数多くの参加体験を促す。(家でも工夫して遊べるもの)「ゴム式の射的」や「吹き矢」「玉入れ」「的当て」「段ボール式のボーリング」「スリッパかご入れ」等々がスポーツの基本動作や健康維持に繋がることを後々に知ってもらい、興味を持った動きの延長にあるスポーツに誘導。お祭り式なら地域の飲食関係や他業種の人にもブースを無料で提供し代わりに運営の準備や片付け、参加者の見守りや応援も積極的に協力してもらえれば、宣伝効果にもなり得ます。</p> <p>○障害のある人に対する配慮に関しては、実施しても付き添いがないと移動が難しい人に、現在、品川区では、コミュニティーバスの停車駅をどこにするか、議論されているので、イベント会場になりえる施設や可能なら、障害者の自宅の近くにもバス停を設けてもらえるか検討してもらおう。</p>	<p>○今回の計画では、スポーツの定義として、記録を高める競技や他者と競う活動だけではなく、目的を持って楽しむ身体活動を含めた広い意味で捉えることとしています。ご意見のような遊びの延長線上で楽しめる活動も取り入れていきたいと考えます。また、地域の飲食関係や他業種の人との連携により、スポーツに親しむきっかけをつくることについても検討するよう留意します。</p> <p>○障害者施策を所管する部署に確認の上、「区民の活動を広げる担い手づくり」(資料4・5)の中で、連携できる取り組みや工夫を模索します。</p>

2. 施策の柱について

委員の意見	委員長の意見
○SDGsについてももう少し説明して欲しい	○馴染みのない用語のため、計画書の素案を作成する上では、脚注などで用語の意味を説明するよういたします。
○1「誰もがスポーツに親しめる機会づく	○スポーツに対する興味・関心を高める施

委員の意見	委員長の意見
<p>り」では、「みる」ことについて、オリンピック・パラリンピック準備課が進めているブラインドサッカーやホッケー、ビーチバレーのほかに、屋内・屋外スポーツの大規模大会を招致して観戦率を上げ、スポーツへの興味・関心が高まるとよいと思う。</p> <p>○3「地域スポーツの担い手となる人材育成について」で方向性が出されているように、スポーツ指導者の資質向上を図る取組が求められていくと思います。今後、教員の働き方改革や地域で子どもの成長を育む街づくりの流れから、学校の部活動がなくなった後に総合型地域スポーツクラブが子どもの受け皿となります。それに移行するためにも、指導者の資質向上や専門的な研修制度など、整備が必要であると思います。</p>	<p>策として、「みる」スポーツを推進することは重要と考えます。スポーツへの関心喚起に関する取り組みとして反映できるよう検討します。</p> <p>○一般的なスポーツ指導者の資質向上に加えて、学校運動部活動における教員以外の指導者の発掘・養成、地域スポーツクラブの活性化など、地域スポーツの担い手となる人材育成に向けた取り組みとして反映できるよう検討します。</p>
<p>○【施策の柱】2の(1)スポーツ施設の維持・管理について、「区立のスポーツ施設、文化センターの維持・管理」はそのままな気がします。その下の(3)スポーツ施設の利用促進についてが、内容的にソフト的な取組みに感じることから(1)ではハード面・設備的な取組みの方向性のような内容・表現で如何でしょうか。</p> <p>○施策の柱1の(1)全ての人を対象としたスポーツ教室や課題のある特定の対象へのアプローチを行いながら、それと同時に施設・設備の対象者の使い勝手や利便性の向上は図っていかねばと思います。けっして障害者に限った話ではなく。区民のスポーツの実施率を高めるためには、機会づくりも大切ですが、それらをきっかけに継続して楽しめる場づくり・</p>	<p>○ご意見を踏まえまして、取り組みの方向性について、整理の仕方、内容の精査を改めて図ります。</p> <p>○施策の柱はそれぞれ単独で展開されるものでなく、1・2・3の柱は関連し合っています。ご意見を踏まえまして、取り組みの方向性について、整理の仕方、内容の精査を改めて図ります。</p>

委員の意見	委員長の意見
環境（ソフト面を含む）整備が重要だと感じています。	
○スポーツを「する」「みる」「ささえる」を促し、活動を進めたい。	○今後の施策に反映していけるよう調整してまいります。
○「みる」に関してはテレビ等でルールを理解してから大会観戦に進めるが、「する」に関しては、時間・場所・仲間等の問題をクリアしていかないと前進しないのでは・・・「ささえる」は自分の身体が動かせるようになると何か役に立つことができるかが気になってくるのでは・・・情報の発信が大事。時期リーダーの育成を仲間から一歩進んで指導者を目指すように導く施策を考えなくては。	○スポーツ実施については、従来から3つの「間」、時間・空間・仲間ということが課題にあげられています。これらの点と情報発信の充実を加味した取り組みを設けることができるよう検討します。
○スポーツを「行政が求めるもの」を考えた時、スポーツ協会等、推進部を育成し、区民周知を図るべきと思っている。	○「区民のスポーツ活動を広げる担い手づくり」（資料4・5）の中で、今後の施策に反映していけるよう調整してまいります。
○新型コロナウイルスの影響が続くことを考えると「スポーツをする・みる・ささえる」の中でYoutube、ケーブルTV、SNSを活用した「在宅エクササイズ」の取組みを記述されてはいかがでしょうか。	○新型コロナウイルス感染症の影響は加味する必要があります。具体的な取り組みとしてどこまで考慮するかは引き続き検討したいと考えています。
○「誰もがスポーツに親しめる機会づくり」と「気軽にスポーツを楽しめる場づくり」は、機会と施設という意味であろうが、言葉だけが並ぶと違いが分かりにくい。 ○「いずれかの行為を促す取り組みを整理します」の意味が分からない。「整理」とは何をするのか？ ○「関心・行動の段階を考慮する」といいつつ、「実施率の向上」を目指すという目標を掲げることは矛盾しないか？質の面	○今後、施策に紐づく取り組みを整理する中で、改めて文言の差別化を図れるかどうか検討します。 ○行為ごとに取り組みを整理する予定でした。次回の会議では施策体系を示しますので、もう少し内容をご理解いただくと考えます。また、文言を検討します。 ○長期的にスポーツ実施率の底上げを図る施策を検討する上で、関心・行動の段階は重要であると考えています。ただ、書

委員の意見	委員長の意見
<p>へのアプローチは実施率の向上に含まれるのか？</p> <p>○「働き盛り世代、子育て世代、高齢世代、子ども、障害者など、スポーツの実施に課題のある特定の対象へのアプローチを行います」とあるが、前段の「～障害者など」までで、ほぼすべての世代を対象としつつ、「特定の対象へのアプローチ」を謳うことは矛盾を感じる。</p> <p>○「「する」「みる」「支える」という視点を軸とし、」とあるが、「する」と比較すると、「みる」・「ささえる」の視点の施策の方向性が弱い。今後より具体化する必要がある。</p> <p>○「大規模大会」に限定する必要があるのか？そして大規模大会であると、誘致やコストがかかりすぎる。例えば街中や商業スポーツ施設のオープンスペースにおけるエクストリームスポーツの観戦や子どもたちのスポーツ活動の応援など、地域や日常だからこそできるスポーツ観戦の在り方があるはずである。また、官民連携なども視野に入る。</p> <p>イメージ（岡山市の事例） https://www.murasaki.co.jp/brand/ridelifemag-other/shop/other/dbb2e11a-7dca-4602-bc48-94cc3b183206</p> <p>○ここでいう観戦率とは、直接観戦・メディアを通じた間接観戦いずれも含んでいるのか？メディアを通じた観戦も柱にお</p>	<p>き方次第では誤解を受けてしまうかもしれないので、慎重に表現するよう留意します。</p> <p>「質の面へのアプローチ」を施策として体系づけることは難しいですが、可能であれば人材育成の中で触れたいと思います。</p> <p>○ここで示したい趣旨は、実施率といった全体的な目標ではなく、スポーツ実施をめぐる「課題」を明確にし、焦点を絞った施策展開を考えています。その意味で、「対象と課題を絞り込んだアプローチ」などの方が文言として適切かもしれません。改めて文言を検討します。</p> <p>○今後の施策に反映していけるよう調整してまいります。</p> <p>○「みる」スポーツの取り組みは模索しているところでしたので、参考とさせていただきます。</p> <p>○ここでは「実施率」に対応した用語として「観戦率」という用語を用いたいと考えていますので、直接観戦を指します。</p>

委員の意見	委員長の意見
<p>くならば、ICTの活用などの方向（VR・ARといった技術）がこういったところで生かされる可能性がある。こういった技術を用いることは、スポーツ観戦を阻害する要因を埋める可能性もあるし、ポストコロナの視点にもつながる。</p> <p>イメージ（VR・AR）https://myojowaraku.net/article/12033</p> <p>○みるスポーツに関しては、みる機会・場の提供だけでなく、事前のスポーツ観戦学習（見るスポーツのリテラシーを高める教育は学校の保健体育の授業ではほとんど行われたい。そこまですべてでなくてもルールや見どころや選手・チームの背景などを伝える情報提供や事前学習セットでスポーツを見ることは楽しめる）や、見るスポーツの場の演出（照明や映像や実況などだけではなく、ICTの導入やアクセシビリティなども）が必要である。</p> <p>○スポーツを支えるに関して、募集や研修会といった従来型の取り組みだけでなく、派遣・登録の仕組みづくり（専門ボランティア・スポットボランティア）、スポーツボランティアのコミュニティ支援（サークル化）やロイヤリティを高める施策（グッズやユニフォーム）なども検討すべきである。</p> <p>○スポーツ施設の「維持・管理」は最低限の当然の行為であり、施策の方向性や柱にならない。推進計画に加えるのであれば、せめて方向性を示したうえでの「改修」や「活用」が必要である。例えばありがちな言葉を使えば、ユニバーサルデザインなど。SDGsで関連する言葉はないか？</p>	<p>ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、必ずしも直接観戦を促すことだけで良いのか、ICTの活用による間接観戦も積極的に促すべきか、ということは検討する必要があると考えます。</p> <p>○見るスポーツのリテラシー育成は、主にスポーツ教育の課題とされますので、どこまで生涯スポーツ推進の計画に盛り込むか検討する必要があると思います。可能であれば、人材養成の施策の中で触れられればよいと思います。</p> <p>見るスポーツの場の演出は、柱1または柱2の中で検討したいと思います。</p> <p>○取り組みを検討する際に留意します。</p> <p>○「維持・管理」及びユニバーサルデザインの文言の検討をいたします。また内容については、取り組みを整理する際に留意します。</p> <p>SDGsにつきましては、いくつかの目標がスポーツ施設だけでなく、計画全体に関わるものであるため（資料6. 1（5）、3－（3））、個別の柱で具体的に扱うこ</p>

委員の意見	委員長の意見
<p>○公共空間の有効活用に関して、民間企業等との連携を謳うのであれば、公共空間にこだわる必要はない。民間商業施設なども活用すべきである。</p> <p>○公共スポーツ施設の有効活用に関して、「スポーツの実施を促す取り組み」とあるが、先ほどの例に示したように「みる」スポーツにも活用できるはずである。一方で、公共スポーツ施設における観戦環境についても検討すべきであろう。</p> <p>○スポーツ指導者については、「発掘・養成」だけでなく、スポーツ指導者に対する「支援」の視点を入れるべきである。</p> <p>○スポーツ協会・スポーツ推進委員会・民間企業を横並びにすることには違和感がある。</p>	<p>とは難しいと考えます。SDG s は本計画のバックグラウンドになる考え方として位置づけたいと思います。</p> <p>○民間企業と連携して公共空間の有効活用を図る趣旨ではないため、取り組みの差別化を図れるように文言を検討します。</p> <p>○取り組みを検討する際に留意します。</p> <p>○取り組みを検討する際に留意します。</p> <p>○従来から関係のある団体と、これから新たに連携をねらう民間企業との位置づけを明確にするよう留意します。</p>
<p>○スポーツをすることについては、種目にも依ると思いますが、障害者も健常者もコート別などにして同時開催が可能であれば、参加者もスタッフもお互い協力できることを実践することで共存にもなり住みよい街づくりにもなるのではないのでしょうか</p> <p>○専門家組織にDVDやアプリなどで資料作成してもらい、一般（ボランティアも含む）の人にも理解できるような老若男女に通ずるからだの原理原則を各々の団体に提供したり、年に数回研修などを実施し、参加した団体には僅かでも助成金制度的なものを設けたりすることで、イ</p>	<p>○取り組みを検討する際に留意します。</p> <p>○「区民のスポーツ活動を広げる担い手づくり」（資料4・5）の取り組みを検討する際に留意します。</p>

委員の意見	委員長の意見
<p>インテグリティやコンプライアンスにも関わらず同様に一定ラインの質の確保が期待できると考えます。</p>	

3. 基本理念について

委員の意見	委員長の意見
<p>○スポーツで心と体を健康で笑顔のしながわを</p> <p>○スポーツでひとつに</p>	<p>○基本理念を検討する際に参考とさせていただきます。</p>
<p>○共生社会、多様性、認め合い、する・みる・ささえる、にぎわい活力、One Team、心と体のリフレッシュ</p> <p>○スポーツの「する・みる・ささえる」視点から誰もがすこやかしながわ</p>	<p>○基本理念を検討する際に参考とさせていただきます。</p>
<p>○「スポーツが繋げる」「スポーツの輪が育む」「誰もが輝くまち」「みんなが輝くまち」</p>	<p>○基本理念を検討する際に参考とさせていただきます。</p>
<p>○社会経済状況の変化に、新型コロナウイルス感染が突然に発生した時の対応策を記載したら思いました。</p> <p>スポーツの力で育む 笑顔輝くまち しながわ を指示します。</p>	<p>○基本理念を検討する際に参考とさせていただきます。</p>
<p>○歳を重ねると生きがいを見失う傾向にあるので、生きがいを持てる生活を送ることが明るく元気な人生になるのでは</p> <p>○スポーツを生きがいとして人生が送れるしながわ</p> <p>○スポーツに生きがいを持つ生活の維持ができるまち</p>	<p>○基本理念を検討する際に参考とさせていただきます。</p>
<p>○障害者2団体の話だけでなく、障害者ハンデの異なる意見、多々あると考えるので、次の5団体会長の意見を聴取すると参考になると考えています。</p> <p>[・品川区肢体不自由児者父母の会・品川</p>	<p>○障害者団体の意見は、3団体から得ており、身体障害者、知的障害者のスポーツに親しむ上での課題を取りまとめています。まずはこれらの意見から取り組みを検討しつつ、欠けている視点があれば個</p>

区重症心身障害児（者）を守る会・品川区視覚障害者福祉協会・品川区聴覚障害者協会・品川区精神保健福祉家族会]	別に情報収集を行いたいと考えます。
○SDGs 3「すべての人に健康と福祉を」に区の地域スポーツが重要な役割を担っていることや新型コロナ下での在宅での健康づくり、ZOOMなどリモート双方向性を活用した体力の向上	○基本理念を検討する際に参考とさせていただきます。
○現行案は、抽象的であり、資料に書かれた社会情勢や政策等とのつながりが見えない。区の政策であるため、区の基本計画等の文言の活用と一貫性が必要である（地域性）。それによって優先順位も検討したほうが良いのではないか。資料にある文言であれば「多文化、多様な」等であるが、その他にも重要なキーワードがあるはずである。	○品川区の生活課題やスポーツ推進をめぐる課題との関連から「スポーツの推進を通じて実現したいまちの将来像」、そしてこれから検討する具体的な政策を整理したいと考えています。また、区の長期基本計画との整合性にも留意するようにします。
○安全に誰でも参加（都市型観光の人も含む）し実践できる。 ○区民皆が共通して健康、維持増進できるまち	○基本理念を検討する際に参考とさせていただきます。
○「学校や地域センター、体育館等の運動施設など、区の関係諸機関が連携して区民の健康や体力の向上を目指す。」というような、品川区が一丸となって取り組むことをアピールできるような文言をはっきりと明記してはどうでしょうか。	○基本理念を検討する際に参考とさせていただきます。

4. その他について

委員の意見	委員長の意見
○品川では、スポーツ施設が少なく、気軽に接することができる環境作って欲しい。 ○障がい者が利用し易い施設、指導者を養成に力を入れて下さい。	○スポーツ施設の新設については時間をかけて検討する必要があると考えていますが、一方で多くの区民に利用してもらう取り組みや、利用のしやすさの向上を図る取り組みを推進する予定です。

<p>○障害者総合スポーツセンターを調査くださいまして有難う御座いました。本来は、施設見学、施設の見学というよりもセンターで運動している障害のある人の様子を見てもらい、今後具体的な取組みを検討していく上でハードルを下げてくださいなかったという思いがありました。センターでも障害の程度・状況によっては、介助者と一緒でもなかなか「運動」とまではいかない方もいますが、多くの障害のある方がその人の状況に応じて運動・スポーツを行う（楽しむ）ことが可能であると感じています。運動の内容も固定的ではなく、軽度な運動からでも続けることにより体力や筋力、バランス感覚などの向上がみられ、運動内容の選択肢が増えていくケースがとても多くみられます。また、そのようなセンター利用者で「常連」（殆どの方が常連化してますが）の方は、区立の体育施設等を使用することに殆ど問題がないとも感じています。センターで夏場の事を考えなければ一番利用率が高い施設はトレーニング室です。センターのトレーニング機器の殆どは一般的な物で、自転車エルゴなどもスタッフの手助けなしで使用している方が沢山います。今後、教室などの企画と並行して、区の体育施設での障害者の日常的な受入れ、利用促進に向けた取組みを検討いただくのは如何でしょうか。他区の話しで恐縮ですが、目黒区では障害者を対象としたトレーニング教室を開催したことがあります。また、武蔵野市では随分と前から障害者の施設利用に積極的な取組みを行っています。区の障害のある人のスポーツ実施率の向上を考える</p>	<p>○今後障害者スポーツを推進するためには、障害者が区内のスポーツ施設を利用しやすくする取組みが求められると考えています。他自治体の事例も参考にしながら、継続的に障害者がスポーツに親しめる場づくりの取組みとして反映できるように検討します。</p>
---	--

<p>上では、継続的な活動のための場の開拓が必要と感じております。</p> <p>○国や東京都のスポーツ実施率や実態調査等の結果から、健常者が行っている運動内容で一番は散歩・ウォーキングです。これは障害者対象の調査でも同様の結果となっています。</p> <p>「散歩・ウォーキング」は自宅の近くで実施でき移動時間もかからないことから（下手な説明は不要と思いますが…）始め易く、継続させやすい運動だと思います。また、障害のある人考えた時に、正直、区の体育施設に行って自分と同じような障害のある人が殆ど居ないなかで運動することには心理的なハードルが相当高いと思われます。障害がある人の健康意識が低いということはなく（運動意欲は低いとなっていますが）何が出来るだろ、どこで出来るだろう、自分には無理と考える中で、「散歩ならば・・・」になるのではないのでしょうか。実際に継続して行っている運動には理由があると思います。継続的なウォーキング習慣に向けた障害者も対象とした教室の設定は如何でしょうか。障害者スポーツセンターでもノルディックウォーキング教室は人気が高い教室です。何れにしても、今回の設問からは逸れた意見になりましたが、宜しくお願いいたします。</p>	<p>○障害者スポーツの推進に向けて、具体的な活動内容・アイデアに関するご意見をいただきました。障害者を対象とした取り組みとして反映できるよう検討します。</p>
<p>○新型コロナウイルス感染の拡大によって、スポーツを「する事」「応援する」ことなどが自粛や我慢を求められました。スポーツを楽しむことで心身とも鍛えられて、生活するうえで大切なことと考えるてきましたが、感染症の防止のために、人と人の接触を避け、更に指導者の発す</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、新しい生活様式が提唱されています。国が取りまとめた感染拡大を防止しながら安全にスポーツを行うためのポイントや、都が示す暮らしや働き方の「新しい日常」の在り方を踏まえながら、新たなスポーツの取り組み方を模索する必要が</p>

<p>る声、友人との会話などは互いにマスクを付けての対応となりました。危険となる感染症が今後の指導やスポーツをする上での課題が生じたように思いました。今回の新型コロナウイルス感染症によって自粛が余儀なくされて、テレワークが大企業で率先して導入されました。家族との絆に家でできる親子体操なども話題になりました。運動嫌いの子も親と楽しめることでスポーツを楽しむことができるチャンスになったようにも思いました。命が一番に大切なことを理解し、それに負けない心でいるためにスポーツを「する」「みる」「ささえる」が必要であると思いました。</p> <p>○品川区スポーツ推進計画の基本理念に関しては、行政および学識経験者の方のご苦勞に感謝申し上げます。具体的な提案も出来ませんでした。今後よろしくをお願いします。</p>	<p>あると考えています。</p>
<p>○対象の範囲が広いので、一つの方向に決めることが出来ない分、大変さが増してきます。</p>	
<p>○スポーツを推進することにより、品川区民の健康が保持され、福祉の向上、医療費の削減に効果を期待できると考えています。</p>	
<p>○大崎に進出したセガサミーは、社会人野球の強豪であり、CSRに加入していないが、アプローチを取り、指導教室など協力を求めることは少年野球の振興に資するものとする。</p>	<p>○今後の施策に反映していけるよう調整してまいります。</p>
<p>○語尾の「視野に入れます」「検討します」といった表現は、断言できないので難しいところは理解するが、極めて後ろ向きな印象を受ける。最終的には修正すべき</p>	<p>○まだ施策の柱に設ける取り組みを整理している途中であったため、やや曖昧な表現が多くなりました。今後、具体的に施策・取り組みを整理する上では前向きな表現に</p>

<p>である。</p> <p>○障害やライフステージ・性別といった従来から認識されている特性だけでなく、東京都の自治体としては、現代的・都市的な特性（国籍、宗教、性的指向・性自認等）も視野に入れる必要があるのではないか。</p> <p>○施策の柱（スポーツ関与、施設・場所、担い手の三本柱）がシンプルにスポーツ振興に収まっている印象があるが、それでよいのか？資料にある社会情勢の変化や、スポーツの価値、区全体の課題解決（健康増進、共生社会の実現、地域コミュニティの形成、経済・産業の活性化、都市型観光の推進等）でうたわれている内容とのつながりが見えない。社会情勢・価値・区の課題から柱を作っても良いのではないかと（少なくとも施策の体系図としてつながりがわかるようにする必要がある）。そうしないと、施策の必要性・根拠が薄く感じる（スポーツ振興だけでは弱いのではないかと）。</p> <p>○自治体の（スポーツ）施策はどうしても自治体の地理的範囲内で完結してしまう傾向がある。しかしながら住民の生活（スポーツ活動）は、自治体の地理的範囲内で完結しない。住民視点に立てば、他の自治体や海外での活動も含めて生活である。スポーツにおいても、例えばスキーやマリンスポーツなどのアウトドアスポーツを品川区内で実施することは現実的でないが、家族や仲間との交流やレジャー活動（QOL向上）としての価値は高い。東京都や姉妹都市とのつながり、民間企業との連携を含め、地理的範囲を超えたスポーツ振興のビジョンを示すこ</p>	<p>かえていきたいと考えます。</p> <p>○ご意見として承ります。</p> <p>○個別の施策を検討する中で調整させていただきます。</p> <p>○品川区の計画として、どこまで取り入れられるかを検討させていただきます。</p>
--	---

<p>とができれば、相当新しい施策になるのではないか。また、アウトドアスポーツの視点は自治体のスポーツ政策には見受けられないが、従来スポーツをしていない人を取り込むうえでは必要な視点である。</p>	
<p>○品川区の行事に携わる時に参加者も企画側も各世代それぞれの生活に還元され、区民も少しずつ協力でき且つ継続できるようになると良いと思います。また、子供の言葉から発せられる意見、要望などが本質的だったりすることもあるので、俯瞰しながら取り入れ専門家や関係スタッフの方々が深掘りし、実施していくことで自ら積極的に品川区を住みよい街にしたいという意識が高まり次世代にも繋がるきっかけになると考えます。</p>	<p>○今後の施策に反映していけるよう調整してまいります。</p>
<p>○もうすでに入っているのかもしれませんが、はっきりとは明記していなかったので、 ☆区民相互のコミュニケーションと地域との連携。 ・スポーツを通しての区民同士の交流 ・スポーツを通して区民と区の関係機関との連携 上記の考え方をどこかに明記してはどうでしょうか。</p>	<p>○今後の施策に反映していけるよう調整してまいります。</p>

以上